

インターネット 社会楽

インターネットマガジン連載 新「社会楽」

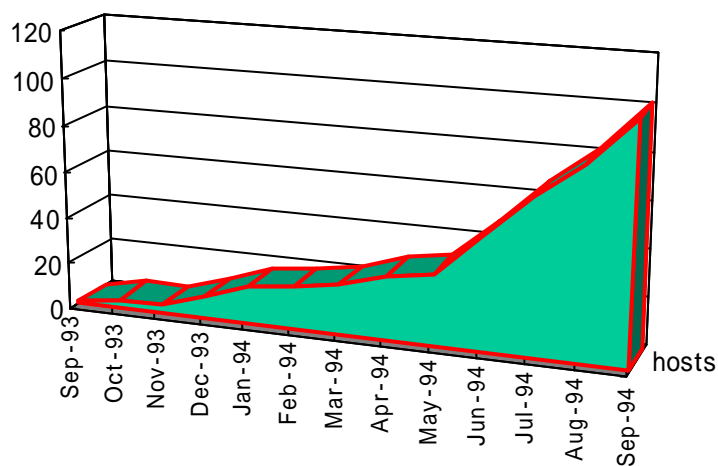
後藤 滋樹

早稲田大学 理工学部

連載の発端

- 日本インターネット協会のニュースレターの編集をインプレス社に委託
- 1994年インターネットマガジン創刊
- 第1回 INTEROPを幕張で開催
- 時代的な背景 :WEBの急速な普及
- 個人的事情 :94年に ISOC理事に就任

WWWサーバの台数 (日本)



By 坂本、高田、佐藤

僅か数年で今昔の感

インターネットに関与する人々の
苦勞は絶えない

- 昔の苦勞：インターネットがなかなか理解されない
- 今の苦勞：インターネットに対する過剰な、過敏な期待

現在のインターネットの関係者

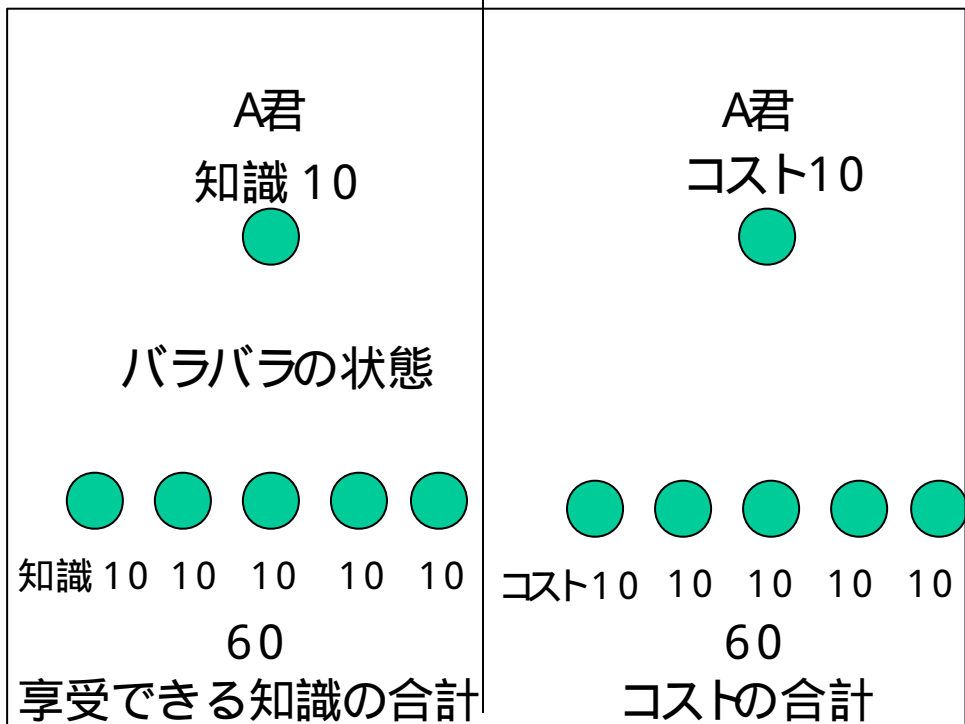
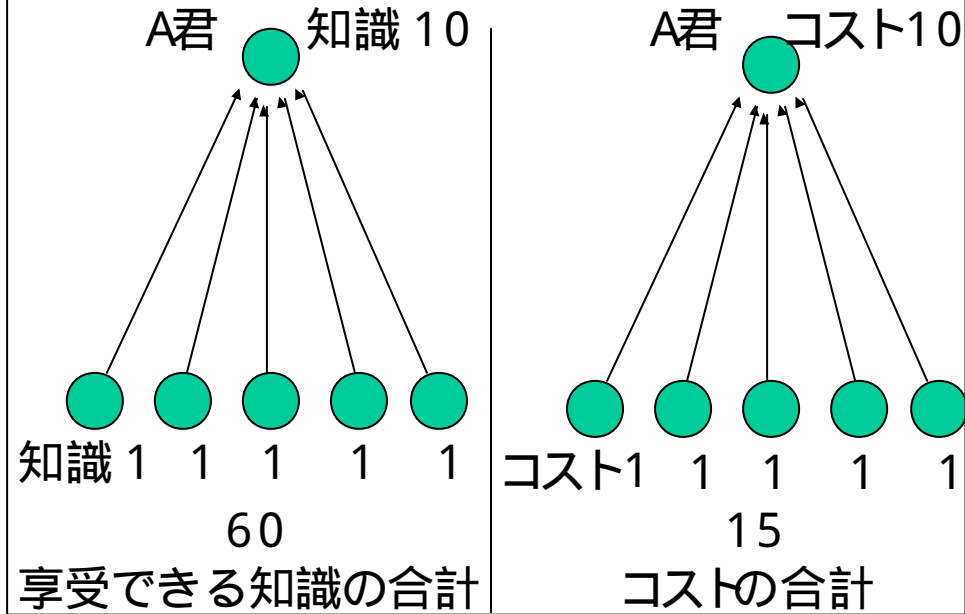
- 等しく渴望しているものがある。
- それは睡眠時間
5時間（一日ではなく一週間）
連日 3時間
会議の途中で眠ってしまう人

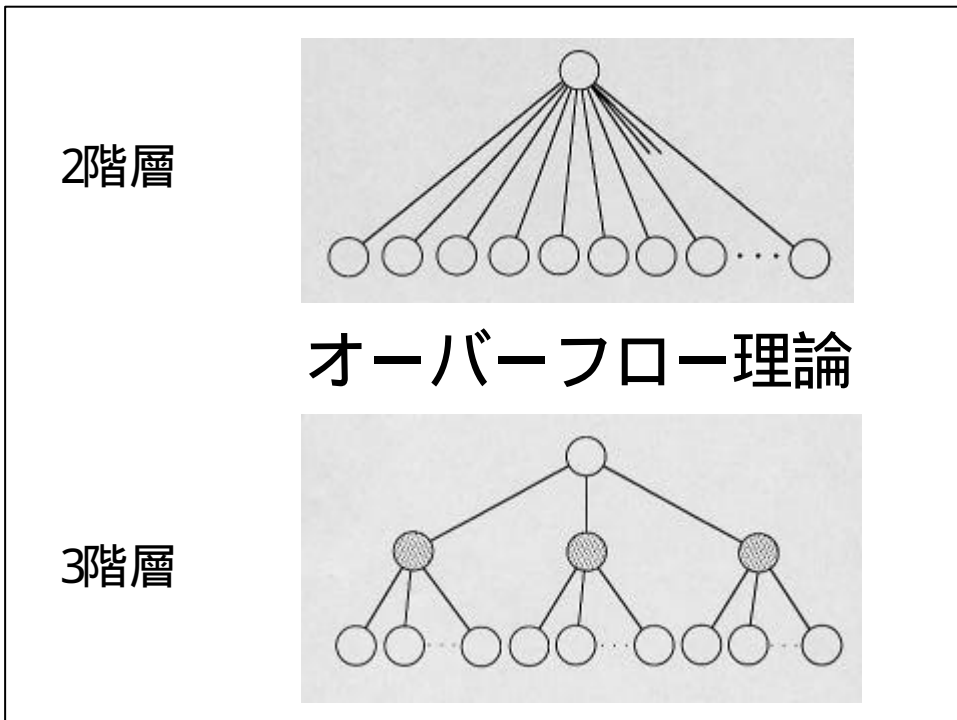
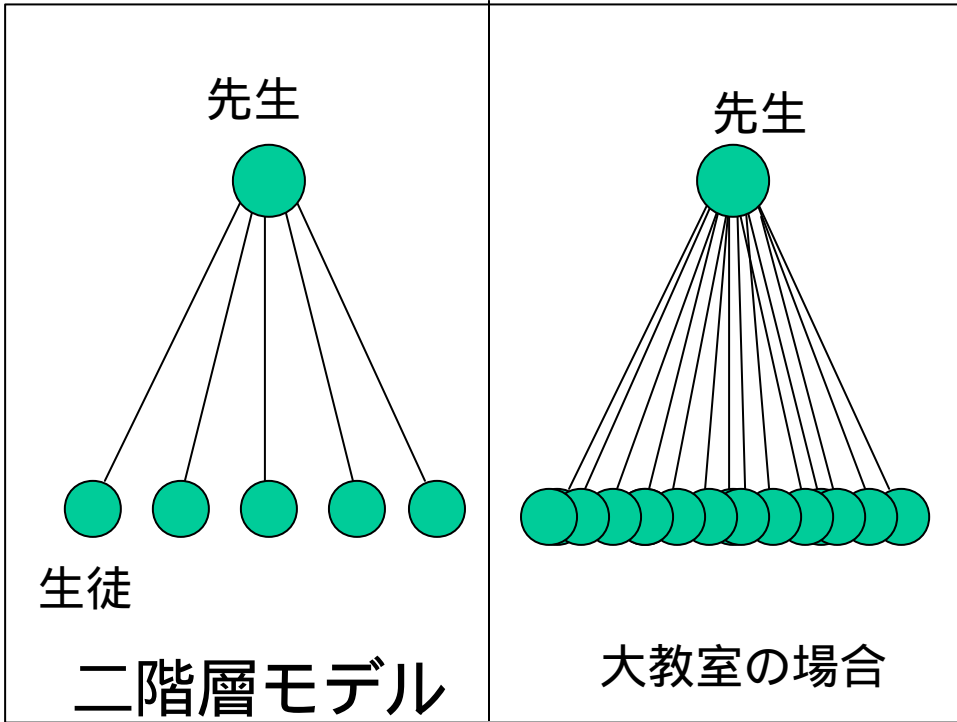
ボランティア[†]は何故、多忙か

- 動いてくれる人に任せておくのが、
経済的に合理的である。
- (例) 出版社の論理：
忙しい人に執筆を頼む
暇な人に頼む出版社はいない

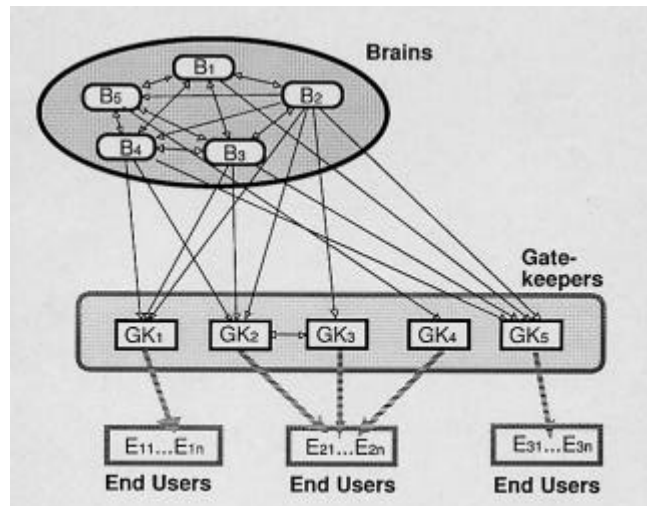
[†]後のスライドではBrainsと呼ぶ

他者に依存する知識社会





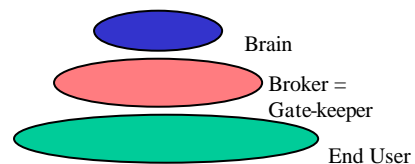
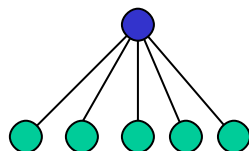
ネットワーク社会はフラットではない



1995.7(第6回)「フラットな社会になるか」

Brainsは分業の一例

- アダムスミスの国富論(諸国民の富)「分業」産業革命を支えた運輸技術
- 情報通信は分業を推進する
実に多くのものが「情報」である



- 社会の構造は単純にフラットにならない
大規模社会では階層構造の方が安定である

日本人は分業が得意か下手か

- 分業よりも「平等」を重視する
- 平等主義の一例は「交代制度」
会社や役所における人事異動
- パートタイムのIT 国家ニッポン

1999年11月(第58回)「フルタイムvs.パートタイム」
2000年10月(第69回)「日本人の個人主義」

(例1) Internet2との交渉

- 1995年
米国政府はインターネットを民間に委ねる
- 1996年
次世代インターネットを政府が主導する
- 1996年
アジア側で呼応する動きを開始 (APAN)
次世代インターネット

米国式のプロジェクト運営

- 1996年

Internetは予算がゼロドル。話だけ。

- 1997年

UCAIDが設立される。専任スタッフ数人。

- 1998年

MoUの締結交渉で彼我の差を感じる。

日本の弱点

パートタイム vs. フルタイム

新規プロジェクトがスタートする時

既存の会社の中で対応

新しい会社を設立

既存の役所が担当

新しい部局を創設

既存の学科が学生を受入れ

新しい学部・学科の誕生

従来 of 枠組にも、それなりの合理性

ただし、相当に工夫しないと、パートタイムはフルタイムと競争できない。

(例2) ICANNに取組む姿勢

- 日本 ICANNフォーラム
事務局：(社)JPNIC

委員会組織



- ICANN (本部)

米国の法人

ICANNにとって2000年は重要な月

いつものことながら...

- 事態を認識している人,理解している人
ボランティア, Brainsが担当することになる
- 日本のインターネットの「やり方」を
変えないと,せっかくのITブームも無駄
- 村井純先生が「IT戦略会議」で奮戦中

これより第 1 部
ICANNの理解を深める運動

ICANN

インターネットの
目に見えない資源
の管理

ITにおいて重要なもの

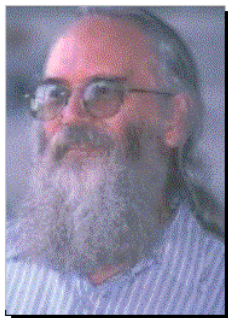
- もっと光ファイバを！
- パソコンは使いにくい
- 通信回線があり、パソコンがあってもインターネットは使えない。

ドメイン名が必要

- ドメイン名 : `icann.org`
`waseda.ac.jp`
- メールアドレス :
`members-announce@icann.org`
`goto@goto.info.waseda.ac.jp`
- URL:
`http://www.icann.org/`
`http://www.goto.info.waseda.ac.jp`

誰が.jpは日本であると決めた

- IANA
Internet Assigned Numbers Authority




ICANN

[Jon Postel](#)

August 6, 1943 - October 16, 1998

IPアドレスも必要



192.0.34.65
133.9.81.1

ICANN
早稲田大学後藤研

202.12.30.249
203.37.255.97

i cann. ni c. ad. j p
www. apni c. net

誰が IPアドレスを割り当てた

- JPNIC
- その本は APNIC
- その大本は IANA

以下同文

ICANN

ICANN

Internet Corporation for
Assigned Names and Numbers

以前は IANA

= Internet Assigned Numbers Authority

<http://icann.nic.ad.jp> に
日本語の情報掲載

既に割当済みだから 日本は困らないのか

- 今後、どのような変化が起こるか予見できない (1969, 1984, ...)
- ドメイン名に関する規則の追加、変更
- IPv6の IPアドレスの割当が本格化

1998年 5月 (第 40回) 「ドメインネーム騷動」
1999年 9月 (第 56回) 「ドメイン名に中国語」

国際的なルールを決める局面

- 日本からの貢献が必要
国別ドメインにおいて JP は UK と
並んでパイオニア的な存在
- IP アドレスにおいても
APNIC は JPNIC 中のプロジェクト
としてスタートした

誰でも ICANN に参加できる

- ただし 16 才以上
- 電子メールアドレスを持つ
- 郵便の届く住所がある

- 一般会員 Membership At Large
- 登録を済ませた方は、ぜひ投票を

他の国における関心の高さ

- 中国の一般会員の登録が多い
- 実は中国の IP アドレスの割当て量は韓国と並んで、日本を抜く勢い。
<http://www.apnic.net/>
- 北京における研究機関の間の光ファイバの拡充は筑波を超える。

FIN

